

2013.11.6

お知らせ

2013 年度国内マラソン大会における血液検査の実施について

強化委員長 原田 康弘

医事委員長 山澤 文裕

国際陸上競技連盟(LAAF)は、2011 テグ世界陸上、2013 モスクワ世界陸上で競技会前血液検査を参加全選手に対して実施し、さらに競技会外ドーピング検査の一環として平素より血液検査を実施しています。血液検査は、赤血球新生刺激物質や輸血の乱用を検出するドーピング検査の1つである競技者生物学的パスポート(Athlete Biological Passport, ABP)プログラムとして実施され、LAAF は ABP 異常によるドーピング防止規則違反例をロンドンオリンピック開始前より摘発しています。ABP プログラムの主たる目的は、赤血球新生刺激物質や輸血の乱用の検出を、系統的かつ間接的に証明するもので、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)も、国際的潮流である ABP プログラムを始めました。

日本陸連はドーピング防止教育・啓発、検査実施などについて常にわが国のドーピング防止活動を牽引してまいりました。本年 6 月の日本選手権においては血液検査を実施したことは記憶に新しいことと思います。今般、日本国内においても、わが国トップレベルの陸上競技者のクリーンさを証明するため、マラソン大会において血液検査を実施し、包括的な ABP プログラムを開始することとなりました。

2013 年度は下記の要領で血液検査を実施いたします。居場所情報義務違反や通告された血液検査の拒否などは、ドーピング防止規則違反に問われる可能性がありますので、指導者および参加競技者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

要 領

1. 血液検査を実施するマラソン大会
複数国内主要マラソン大会
2. 想定される検査対象競技者
JADA 検査対象者登録リスト (RTP) 競技者
国内招待選手
JADA が指定する日本人選手
3. 実施方法
JADA が競技会外検査の一環として血液検査を実施する。